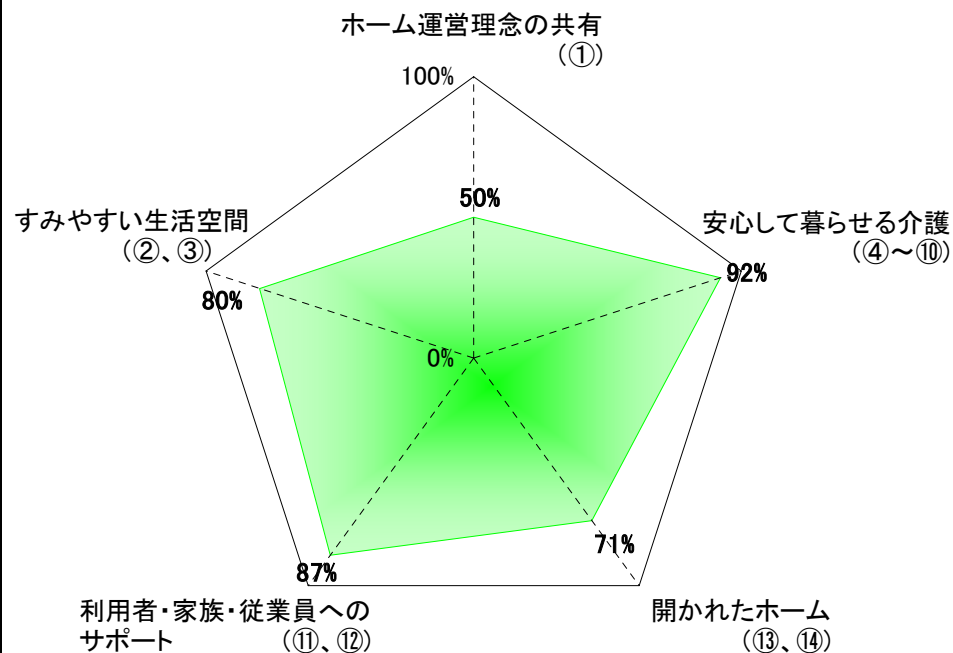


1. 評価報告概要表

全体を通して(※このホームの優れている点、独自に工夫している点など)	
医療機関での業務経験が長い法人代表・管理者が、“業務に追われたりスケジュールにふりまわされず、ゆっくり入居者と接する”ことを理想として立ち上げたホームである。ホーム外観は、柔らかい色調の壁やレンガで明るい雰囲気となっており、内装も、壁紙・カーテン・家具がすべて暖色系でまとめられ、柔らかい雰囲気を作る工夫がされている。法人代表・管理者の他、看護師資格を有する職員を2名確保しており、常に、1名の看護師が勤務についている状況で、入居者の疾病から来る課題・リスクを踏まえた健康維持のためのケアに優れている。法人代表・管理者がホームの2階に住居を有し、緊急時に対応できる体制にあることも、家族・職員にとって安心の材料となっている。開設から1年のホームであり、今後取り組んでいくべき課題も見え始めたとのこと。医療的ニーズに強いといったホームが有しているプラス面を最大限活かしつつ、入居者の持たれている力・可能性を信じて、職員と一緒に話し合いを繰り返し、喜怒哀楽も含めた入居者の“暮らし”の支援を強化していくことで、更なる質の向上が期待される。	
特記事項(※優先順位の高い要改善点について)	
ホームの運営理念の共有	「重要事項説明書」に、入居者の行動を制限するような表現が見られる。実際には制限するようなことは行っていないので、実際に行っているケアが誤解されるような表現がないか再検討するとともに、グループホーム協会が謳っている権利・義務を参考にし、説明文書の見直しを試みて欲しい。また、開設1年未満ということもあり、地域との日常的な交流はまだ難しく、近隣に十分、認知症のことやホームの取り組みを伝え切れていないと言いがたい。内部充実が図られてきた現在、当該地域・ホームに合うと思われる方法・時期について、職員と話し合いながら、地域に対する働きかけを少しずつ進めていくことを期待したい。
すみやすい生活空間	塗り絵・紙芝居・ゲーム等、いろいろ試みたが、視力・聴力・四肢筋力の低下等から難しく、現在、意欲を示していただけるものとして活用しているのは、洗濯物たたみ・布切り等の作業、風船/パレー・体操のみとのこと。入居者の生活歴・過去の趣味・好きだったこと・大切な思い出・現在拘っていること等の情報を収集し、今後も諦めず、各入居者の目がキラリと光る物品探しを続けて行って欲しい。その他、ホームの各所に温湿度計を設置し、客観的な温湿度も把握しながらの空調管理の強化を期待したい。
安心して暮らせる介護	「介護計画」の作成・見直しに際し、アセスメントが充分に行えているとは言いがたい。心身状況とともに、日々の会話を通して生活歴・好きな事・関心事といった情報を収集・記録し、職員で情報の共有化を図った上で、どのようにケアに活かしていくか話し合いを行い、健康維持はもとより、喜怒哀楽も含めた入居者の“暮らし”の支援に取り組んで行って欲しい。その他、個別栄養管理の仕組み作り、定期健康診断の体制作りも期待したい。
利用者・家族・従業員へのサポート	現任職員については、応募した研修が抽選漏れになったこともあり、まだ外部研修の受講機会が作れていない。また、申し送りの場で、その時その時の注意を伝えることはしているが、定期的に内部研修をしているという状況にはない。法人代表・管理者等の医療の知識を職員に伝えたり、毎月課題を設定して、職員が持ちまわりで、調べてきたことを発表するなど、様々な方法を試みながら、定期的に内部研修を行っていきとともに、市主催・事業者協議会主催の勉強会も含め外部研修を受講する機会を増やしていくことを期待したい。人権に関する研修についても、年間スケジュールの中に盛り込んで行って欲しい。
開かれたホーム	これまでは、内部充実に力を注いできたとのこと、地域への取り組みは今後の課題と思われる。どのような交流のしかたが良いかは、地域性・入居者の心身状況により異なってくると思われるので、職員とも話し合いをしながら、少しずつ進めて行って欲しい。まずはホームを身近に感じていただくことを目標に、ホーム行事にお招きしたり、ホームで作ったものを持って入居者と一緒に挨拶に行ったりするのも良いと思われる。“認知症に関する相談お受けしませんが”と書いたパンフレットや、介護保険・認知症・高齢者の健康についての情報コーナーを設けた地域向け情報紙を配る等、いろいろな方法を検討して欲しい。



レーダーチャート
外部評価項目の項目数のうち、どの程度達成できているかを示す。利用者が入居する際の選択に資するために、項目を再分類している。

①運営理念	⑧医療・健康支援
②家庭的な生活環境づくり	⑨地域生活
③心身の状態に合わせた生活空間づくり	⑩家族との交流支援
④ケアマネジメント	⑪内部の運営体制
⑤介護の基本の実行	⑫情報・相談・苦情
⑥日常生活行為の支援	⑬ホームと家族との交流
⑦生活支援	⑭ホームと地域との交流

2. 評価報告書

項目番号		項 目	できて	要	評価
外部	自己		いる	改善	不能
		I 運営理念 1. 運営理念の明確化			
1	1	○理念の具体化及び運営理念の共有 管理者は、痴呆性高齢者グループホーム(以下「グループホーム」という。)に関わる法令の意義を理解しており、これを自らが所属するグループホーム(以下「ホーム」という。)の運営上の方針や目標等に具体化し、介護従業者に日常的に話している。	○		
2	3	○運営理念の明示 ホームの運営理念を利用案内時の説明文書及びホームの見やすいところに明示し、かつ、入居者及びその家族等に分かりやすく説明している。	○		
3	4	○権利・義務の明示 利用者の権利・義務を利用案内時の説明文書及び契約書に分かりやすく示し、かつ、入居者及びその家族等に説明し同意を得ている。		○	
		2. 運営理念の啓発			
4	5	○運営理念の啓発 ホームの運営理念や役割が地域に理解されるよう、地域に対する運営理念の啓発・広報に取り組んでいる。(ホームの説明会、ホーム便り等)		○	
運営理念 4項目中 計			2	2	0
		II 生活空間づくり 1. 家庭的な生活空間づくり			
5	6	○気軽に入れる玄関まわり等の配慮 違和感や威圧感を感じさせず、入居者や家族が入りやすく、近隣の住民も訪ねやすいよう、玄関まわりや建物の周囲に、家庭的な雰囲気づくりの配慮をしている。(玄関まわりに草花を植える、親しみやすい表札をかける等)	○		
6	7	○家庭的な共用空間づくり 共用の生活空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、いずれも家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的である。	○		

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能
外部	自己				
7	8	○共用空間における居場所の確保 共用空間の中に、入居者が一人になったり気のあった入居者同士で自由に過ごせるような居場所を確保している。	○		
8	9	○入居者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり 居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。	○		
家庭的な生活環境づくり 4項目中 計			4	0	0
2. 心身の状態にあわせた生活空間づくり					
9	11	○身体機能の低下を補う配慮 入居者の身体機能の低下にあわせて、安全かつできるだけ自立した生活を送れるようにするための設備や工夫がある。(すべり止めや要所への手すり等の設置、浴槽・便座・流し台等の使い勝手の工夫、物干し等の高さの調節等)	○		
10	13	○場所間違い等の防止策 職員は、入居者一人ひとりがホーム内の場所が分かるかを把握しており、家庭的な雰囲気をこわさずに、場所の間違いや分からないことでの混乱を防ぐための工夫をこらしている。(トイレや部屋の目印等)	○		
11	14	○音の大きさや光の強さに対する配慮 入居者が落ち着いて暮らせるように、音の大きさや光の強さに配慮している。(テレビ、職員の会話のトーン、照明の強度、まぶしさ、日射し等)	○		
12	15	○換気・空調の配慮 気になる臭いや空気のだよみがないように、換気を適宜行っている。また、冷暖房の温度調節は、冷やし過ぎや暖め過ぎがないように適切に行っている。		○	
13	17	○時の見当識への配慮 見やすく、馴染みやすい時計や暦を、目につくところに設置している。	○		
14	18	○活動意欲を触発する物品の用意 入居者の活動意欲を触発する馴染みの物品を用意し、本人の経験や状況に応じて提供している。(ほうき、たらい、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品等)		○	
心身の状態に合わせた生活空間づくり 6項目中 計			4	2	0

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能
外部	自己				
		Ⅲ ケアサービス 1. ケアマネジメント			
15	20	○個別具体的な介護計画 アセスメントに基づいて、入居者主体の目標を立て、入居者一人ひとりの特徴を踏まえた具体的な介護計画を作成している。		○	
16	21	○介護計画の職員間での共有 介護計画を、すべての職員の気づきや意見を採り入れて作っており、すべての職員が計画の内容を知ることができる仕組みを作っている。	○		
17	22	○介護計画への入居者・家族の意見の反映 介護計画を、入居者や家族とも相談しながら作成している。	○		
18	23	○介護計画の見直し 介護計画に実施期間を明示して、その期間が終了する際に見直しを行うことはもとより、状態変化に応じた随時の見直しを行っている。	○		
19	24	○個別の記録 日々の介護や介護計画に反映させるため、入居者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録している。	○		
20	25	○確実な申し送り・情報伝達 職員の申し送りや情報伝達を確実にいき、重要な点はすべての職員に伝わる仕組みを作っている。	○		
21	26	○チームケアのための会議 チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、すべての職員で、定期的に(緊急案件がある場合にはその都度)会議を開催し、活発に意見交換を行って合意を図っている。	○		
ケアマネジメント 7項目中 計			6	1	0

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能
外部	自己				
		2. ホーム内でのくらしの支援(1)介護の基本の実行			
22	27	○入居者一人ひとりの尊重 職員は、常に入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行っていない。(入居者一人ひとりの違いの尊重、さりげない介助、プライベートな場所での礼儀、本人の返答能力に応じた質問方法、本人が思っている「現実」を否定しない等)	○		
23	28	○職員の穏やかな態度 職員の言葉かけや態度はゆったりしており、やさしい雰囲気です。	○		
24	30	○入居者一人ひとりの過去の経験を活かしたケア 入居者一人ひとりの生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにそれを活かしている。	○		
25	32	○入居者のペースの尊重 職員は、職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。	○		
26	33	○入居者の自己決定や希望の表出への支援 職員は、入居者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切にし、それらを促す取組を日常的に行っている。(選んでもらう場面を作る、選ぶのを待つ等)	○		
27	35	○一人でできることへの配慮 自立支援を図るために、入居者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○		
28	37	○身体拘束のないケアの実践 身体拘束は行わないということをすべての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。	○		
29	38	○鍵をかけない工夫 入居者の自由な暮らしを支え、入居者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむような配慮をしている。やむを得ず鍵をかける場合は、その根拠が明白で、その理由を家族に説明している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○		
介護の基本の実行 8項目中 計			8	0	0

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能
外部	自己				
		(2)日常生活行為の支援 1) 食事			
30	43	○馴染みの食器の使用 家庭的な食器を使っており、茶碗や湯呑み、箸等は、入居者一人ひとりが使い慣れたものになっている。	○		
31	44	○入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫 入居者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。	○		
32	45	○個別の栄養摂取状況の把握 入居者一人ひとりの摂取カロリーや水分摂取量、栄養バランスを、一日全体を通じておおよそ把握している。		○	
33	47	○食事を楽しむことのできる支援 職員も入居者と同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。	○		
		2) 排泄			
34	48	○排泄パターンに応じた個別の排泄支援 おむつをできる限り使用しないで済むように、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	○		
35	50	○排泄時の不安や羞恥心等への配慮 排泄の誘導・介助や確認、失禁の対応は、不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。	○		
		3) 入浴			
36	53	○入居者一人ひとりの希望にあわせた入浴支援 入居者一人ひとりの希望にあわせ、くつろいだ入浴ができるように支援している。(時間帯、長さ、回数等)	○		
		4) 整容			
37	56	○理美容院の利用支援 入居者一人ひとりの希望にあわせて、理美容院の利用を支援している。(カット、パーマ、染め、セット等)	○		

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能
外部	自己				
38	57	○プライドを大切にした整容の支援 整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○		
		5) 睡眠・休息			
39	60	○安眠の支援 入居者一人ひとりの睡眠のパターンを把握し、夜眠れない入居者には、1日の生活リズムづくりを通じた安眠策を取っている。	○		
日常生活行為の支援 10項目中 計			9	1	0
		(3)生活支援			
40	64	○金銭管理の支援 入居者が自分でお金を持つことの大切さを職員が分かっており、日常の金銭管理を本人が行えるよう、入居者一人ひとりの希望や力量に応じて支援している。	○		
41	66	○成年後見制度等の活用 入居者が(入居申し込み時、退居時等も含む)、自ら意思表示を行うことが難しくなった場合、又は難しくなることが想定される場合等において成年後見制度や地域福祉権利擁護事業等の活用について、利用者や家族に説明・アドバイスを行っている。	○		
		(4)ホーム内生活拡充支援			
42	67	○ホーム内の役割・楽しみごとの支援 ホーム内で入居者一人ひとりが楽しみごとや出番を見い出せるよう、場面づくり等の支援を行っている。(テレビ番組、週刊誌、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、小動物の世話、新聞取り等)	○		
生活支援 3項目中 計			3	0	0
		(5)医療機関の受診等の支援			
43	69	○医療関係者への相談 心身の変化や異常発生時に、気軽に相談できる医療関係者を確保している。(医師、歯科医師、保健婦、看護婦等)	○		
44	74	○早期退院に向けた医療機関との連携 入院した場合、早期退院のための話しあいや協力を医療機関と行っている。	○		
45	75	○定期健康診断の支援 年に最低1回は、健康診断や医師の指導を受けられるように支援している。開設間もないホームは、健康診断を受けられる準備や体制を整えている。		○	

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能
外部	自己				
		(6)心身の機能回復に向けた支援			
46	77	○身体機能の維持 痴呆の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下、平衡感覚の悪化、嚥下機能の低下等)を理解し、買い物や散歩、調理、楽しみごと等の日常生活の中で自然に維持・向上するように取り組んでいる。	○		
		(7)入居者同士の交流支援			
47	79	○トラブルへの対応 職員は、入居者同士のけんかやトラブルの原因を把握し、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の入居者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○		
		(8)健康管理			
48	81	○口腔内の清潔保持 入居者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○		
49	84	○服薬の支援 職員は、入居者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、入居者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。	○		
50	86	○緊急時の手当 入居者のけが等の緊急時に、職員は応急手当を行うことができる。(けが、骨折、発作、のど詰まり等)	○		
51	87	○感染症対策 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA等)	○		
医療・健康支援 9項目中 計			8	1	0

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能
外部	自己				
3. 入居者の地域での生活の支援					
52	91	<p>○ホームに閉じこもらない生活の支援</p> <p>入居者が、ホームの中だけで過ごさずに、積極的に近所に出かけて楽しめるような雰囲気を作っている。(買い物、散歩、近隣訪問、集会参加等)</p>	○		
地域生活 1項目中 計			1	0	0
4. 入居者と家族との交流支援					
53	95	<p>○家族の訪問支援</p> <p>家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。(来やすい雰囲気、歓迎、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)</p>	○		
家族との交流支援 1項目中 計			1	0	0
IV 運営体制 1. 事業の統合性					
54	97	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、グループホームで働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。</p>	○		
55	98	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>		○	
56	99	<p>○責任者の協働</p> <p>法人代表者及び管理者は、ケアサービスの質の向上に熱意を持ち、それぞれの権限や責任をふまえて、共に取り組んでいる。</p>	○		
57	100	<p>○職員の意見の反映</p> <p>介護従業者の採用、運営方法、入居者の受入れや入居継続の可否については、職員の意見を聞いている。</p>	○		
2. 職員の確保・育成					
58	104	<p>○入居者の状態に応じた職員の確保</p> <p>入居者の状態や生活の流れを支援するために、これに即した職員の勤務ローテーションを組んでいる。</p>	○		

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能
外部	自己				
59	106	○継続的な研修の受講 職員が、採用時、フォローアップ等それぞれの段階に応じた研修を受講し、その内容をすべての職員に周知している。		○	
60	108	○ストレスの解消策の実施 職員の業務上の悩みやストレスを解消する方策を採り入れている。(外部者と接する機会、職員相互の親睦、悩みの聴取、スーパーバイザーの導入等)	○		
		3. 入居時及び退居時の対応方針			
61	110	○入居者の決定のための検討 グループホームに適した入居対象者であるか、十分に検討している。(介護保険被保険者証、診断書、入居申請に至る経過、生活や対人関係、入居者・家族の希望等)	○		
62	112	○退居の支援 退居は、契約に基づくとともにその決定過程が明確である。また、入居者や家族に十分な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○		
		4. 衛生・安全管理			
63	115	○ホーム内の衛生管理 ホーム内の清潔や衛生を保持している。(食品、布巾、包丁、まな板、冷蔵庫、洗濯機等)	○		
64	117	○注意の必要な物品の保管・管理 薬や洗剤、刃物等の注意の必要な物品については、保管場所、管理方法等を明確に取り決め、かつ、そのとおりに実行している。	○		
65	119	○非常災害対策 火事などの緊急な事態に備え、避難経路及び避難場所の確保をしておくとともに、すべての職員が誘導方法等を熟知している。	○		
66	120	○事故の報告書と活用 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態が発生した場合、事故報告をまとめており、サービスの改善につなげている。(再発防止の話しあい、今後活かす意義づけ等)	○		
内部の運営体制 13項目中 計			11	2	0

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能
外部	自己				
		5. 情報の開示・提供			
67	122	○調査等の訪問に対する対応 介護相談員や評価調査員等の訪問時には、情報を積極的に提供している。	○		
		6. 相談・苦情への対応			
68	123	○相談・苦情受付の明示 相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口及び職員が明確であり、入居者及び家族にその利用の仕方を文書と口頭で繰り返し伝えている。	○		
情報・相談・苦情 2項目中 計			2	0	0
		7. ホームと家族との交流			
69	126	○家族の意見や要望を引き出す働きかけ 家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、面会時の声かけ、定期的連絡等を積極的に行っている。	○		
70	127	○家族への日常の様子に関する情報提供 家族に、入居者の暮らしぶりや日常の様子を定期的、具体的に伝えている。(「たより」の発行や行事ビデオの上映、写真の送付等)	○		
71	130	○入居者の金銭管理 入居者が金銭の管理ができない場合には、その代替方法を家族と相談の上定めており、家族に定期的にその出納を明らかにしている。	○		
ホームと家族との交流 3項目中 計			3	0	0

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能
外部	自己				
		8. ホームと地域との交流			
72	131	○市町村との関わり 市町村との連絡を密にとり、家族介護教室等の市町村事業を積極的に受託している。		○	
73	134	○地域の人達との交流の促進 地域の人達が、遊びに来たり立ち寄ってくれたりするように取り組んでいる。		○	
74	136	○周辺施設等の理解・協力への働きかけ 入居者の生活の安定や拡がりのために、周辺地域の諸施設から協力を得ることができるよう、理解を拡げる働きかけを行っている。(商店、福祉施設、警察、消防、文化教育施設等)	○		
75	137	○ホーム機能の地域への還元 ホームの機能を、入居者のケアに配慮しつつ地域に開放している。(痴呆の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受入れ等)	○		
ホームと地域との交流 4項目中 計			2	2	0

- ※ (1)「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
(2)「職員」には、管理者及び非常職員を含む。